



潮見っ子

学校だより 3月号《第14号》

芦屋市立潮見小学校

令和8年2月27日(金)



◇学校教育目標◇ 学び合い 支え合う 心豊かな子どもの育成

「人を大切にできる力」「自分の考えを持つ力」「自分を表現する力」「チャレンジする力」

ほぼ毎日更新中

様々な文化や価値観に触れることにより・・・

校長 田淵 雅樹

先日まで開催されていたミラノ・コルティナオリンピックでは、国や地域の垣根を超え、選手同士はもちろん、コーチ陣までもが他国の選手の演技を讃え合う姿が多く見られました。スノーボード競技では、順位にかかわらず挑戦した選手を笑顔で抱きしめる光景が繰り返し見られ、フィギュアスケート女子では、中井亜美選手が銅メダルを確定させた瞬間、アメリカのアリサ・リウ選手と抱き合い、うれし涙を流す場面が何度もハイライトで報道されていました。皆さんの中にも、心に残るシーンがあったのではないのでしょうか。そこには、勝敗だけでは語りきれない、スポーツが持つ本当の価値があふれていたように思います。

柔道でオリンピックに出場した山口香さんは、『スポーツの価値』という本の中で、「一つの価値観しか認めない社会は息苦しいものですが、スポーツが見せてくれる多様性から生まれる面白さは、スポーツが伝えられる大切な価値の一つだと思います。」と述べています。また、「現代のグローバルな社会の中で、私たちは日本の中だけに閉じこもって生きていくことはできません。多様な文化や価値観を持つ人々と積極的に交流し、渡り合っていくためにも、異なる他者をいかに理解し、また自分自身を他者に理解してもらおうかということが大切になります。」と記しています。スポーツは、違いがあるからこそ互いに学び合い、尊重し合えるという姿を私たちに教えてくれます。

潮見小学校には、外国につながる児童が多く在籍しています。日々の学校生活の中で、子どもたちは言葉や文化の違いに触れ、時には戸惑いながらも、互いを知ろうと一歩踏み出す姿がたくさん見られます。その姿は、オリンピックの選手たちが示してくれた光景と重なるものがあります。

多様な背景をもつ仲間とともに学び、成長していける環境があることは、潮見小学校の大きな強みです。自分とは違う文化や価値観に出会ったとき、それを否定するのではなく、「どうしてそう思うのだろう？」と立ち止まって考えてみる。相手の思いを聞き、自分の考えも言葉で伝えてみる。このような経験の積み重ねが、子どもたちの未来を豊かにしてくれるはずです。

これからも潮見小学校では、違いを力に変え、互いを認め合いながら学べる環境づくりを進めていきます。子どもたち一人ひとりが、自分のルーツや個性を大切にしていける学校を、潮見っ子にかかわる学校・家庭・地域とともにつくっていきたいと思います。

☆令和7年度の卒業式【3/19(木)】について☆

- ・1～4年生・・・休業日(学童はあり、キッズスクエアはなし)
- ・5・6年生・・・登校日(在校生代表として、5年生も式へ参加)

☆令和8年度の主な学校行事予定について☆

2月の学級懇談会にてお知らせしましたが、ホームページにも掲載しております。変更等ありましたら、お知らせいたします。

☆令和8年度の入学式【4/13(月)】について☆

令和7年度から、新入生の生活リズムを整えるという観点から午前開催に変更しています。それに伴い、各学年の入学式の日々の登校、休業の扱いを以下の通りとします。

- ・2～5年生・・・休業日(学童はあり、キッズスクエアはなし)
- ・6年生・・・登校日(最高学年の自覚を育むため、在校生代表として式へ参加)

